

### 桂スチール BH製作量15%増見通し

桂スチール(本社||兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は今期(2018年9月期)の業績は売上高で145億円前後と過去最高となる見通し。経常利益については母材価格の上昇に加え、人件費や運賃のコスト負担が増え、前期比で減益となる方

向。主力のBH(ビルトH形鋼)の製作量は年間8万ト台に乗せ、前期比で15%前後の増に、切板数量も年間8万5000ト前後と同16-17%増となるもよ

うだ。来期については現段階では計画を明らかにしていないが、最低でも今期並みの数量確保を目指していく方針。同社は国内最大手のBH製作業者で、岡山第1工場、岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、玉野工場・玉野第2工場、姫路工場を有し、建築向け主体の切板、BH・BT製作、およびBHな

どの一次加工に加え、鉄構部材の製作を行っている。今期も首都圏案件だけでなく、全国各地の空港施設整備、大型工場、高層建築向けなどの受注が好調で、直近のBH製作量では月間7000ト前後をマーク。全工場がハイレベルな稼働となっており、中でも、13年に開設した玉野工場はフル稼働となっている。

同社ではこうしたハイレベルな稼働の標準化と負担軽減、および

無人化対応を促進するため、今後も設備投資を継続していく。9月上旬には岡山第3工場(岡山県備前市三石)にBHの仕口部分の一次加工用の最新鋭設備を導入する。導入予定設備は大東精機製で、切断・穴開け・開先・スクレーパー加工を一貫して無人で行えるのが特徴。

主力のBHの溶接設備も9月に岡山第2工場のK-2棟の1基、11月に岡山第1工場のE棟の1基、12月に岡

山第1工場のI棟の1基を更新する。さらに、来年2月末には岡山第1工場にイタリア製の水平すみ肉溶接機を導入する。同設備は自動反転機を装備しており、仮組みが不要のまま本溶接ができ、BH製作時間の短縮化が図れる。

一連の投資を行う一方で、受注もBH・BT、切板、鉄骨部材製作のいずれの分野も強化し、来期についても今期並みの生産量を継続していきたい考え。